

1 開会 (19 時 00 分)

2 委員長あいさつ

3 報告

(1) 成人式 (1/13)

- ・受付従事への御協力についてはありがとうございました。
- ・849 人 (内訳：男性 366 人、女性 383 人) の新成人が出席し、出席率は 70.3%。
6.3 ポイント低下したが、正月休みから 1 週空いたことなどが要因。大学生は試験などがあることも影響。
- ・比較的落ち着いた成人式となった。
- ・受付票を自分で書いて持参する方式に変えたところ、ほとんど記入してあった。成人は非常に協力的であった。
- ・教育委員会定例会では「1/3 に前倒しはどうか？」という意見があったが、1/3 に実施している静岡市では出席率がそれ程よくない。
- ・今、3 連休の中日に実施している。土日 2 連休の場合はどうなるか。
- ・分散開催と一箇所開催では、あまり差が出ていないようである。
- ・来年度は今と同じ状況で予定している。
- ・日本財団の調査では「成人式に出たい成人は 7 割」。島田市はほぼ平均ということ。

質疑・意見

- ・私立中学卒の新成人は交流会に出るのか？近年は私立中へ進学するケースが増えている (特に北中学校校区)。⇒たぶん帰宅しているのでは。または小学校の学区によって出席しているのではないか。
- ・北中は、生徒数が少ないことが原因で進学先として選ばれていない傾向がある。「進学しても部活動ができない。だから私立中学へ進学する」という悪循環がある。

(2) 第 2 次生涯学習推進大綱

- ・パブリックコメント募集した。特にコメントは寄せられなかった。
- ・前回の委員会で説明した内容により、昨日総合教育会議で市長を中心に意見交換が行われた。ほぼそのまま策定する予定。

(3) 第 2 期子ども・若者育成支援計画

- ・パブリックコメントを 12/26～1/25 実施。1 件意見 (子育て体制を盛り込んだらどうか?) があった。そこで出た意見を反映する方向。
- ・「意見と変更点」について資料を基に説明。

前回委員から出された意見（「島田らしさが欲しい」）を反映するため、骨子と本文に「島田らしさ（大井川流域の豊かな資源をいかす）」を3箇所追加した。

(4) 市町社会教育委員長等研修会

- ・1月15日に静岡市のあざれあで実施。坂部委員長、廣瀬委員、富澤委員と事務局が受講。
- ・活動事例紹介で、吉田町の委員が発表。社会教育委員だけでやっている事業ではなく、吉田町が全体で行っている事業に社会教育委員が参加している形式。
- ・今までは委員長（1泊2日）、事務局（日帰り）で実施していたが、今後は皆で受講できる形式になるのでは。

(5) 県中部地区社会教育委員合同研修会

- ・1月23日に菊川市の中央公民館で実施。坂部委員長、廣瀬委員、富澤委員、北川委員、児玉委員と事務局が受講。
- ・講演とアトラクションで構成。アトラクションは地元の琵琶製作・演奏者による講話と演奏だったが、内容がよかった。

(6) 県社会教育連絡協議会活動状況

- ・委員長が改善委員会に参加。
- ・経理の一本化、出金と決裁のルール化について検討している。
- ・経理処理規定の原案を作成し、明日の理事会で諮る。

4 議題

(1) 協議事項「家庭教育の在り方（続）」

- ・2年の任期をかけて協議検討を続けてきたが、表現まではまだ行き着くことができない。次の任期の前半ぐらいまでに仕上げをして、来年度中に教育委員会へ持っていきたい。本日は振り返りをして、「こういう風に提言をしていったらよいのでは」というアイデアをいただきたい。
- ・資料を読み上げ、2年間の振り返りを行なった。その内容を基に委員から意見等を募った。

意見等

- ・投げかけの仕方はどうするのか？「こうしなくては駄目ですよ。」では…。
⇒そのとおりで「こういうことが大事だと思いませんか」というような投げかけ方で。「こうあるべき」では難しいので、世代ごとの関係図を出して説明するような形で考えている。
- ・父親の役割については。新聞報道を見ると、「本当にこんな父親がいるのか」と思ってしまう。
⇒確かに、少し父親の役割に関する検討が足らなかったと思われる。それを扱うことが防止にもなるのでは。来年度、社会教育課では「新米パパの講座」を行う。また、

健康づくり課とタイアップして「父親がこういう風になってくれると母親にとってよい」という講座を行う。

立会い出産の良さなどを話し合う、(手伝うのではなく) ふたりで助け合うことなどもどうか。

- ・「父親の役割」と「母親の役割」を固定的に分けないほうがよいのかもしれない。ワーク・ライフ・バランスの「ワーク」には、お金を稼ぐワークと、家庭内でのワークがある。今までは「俺が稼ぐ。家は任せる」だったが、今はそうではなく共稼ぎ。親がそうならないと、社会も家庭も成り立たない時代。

⇒団塊の世代までは、いろいろな軋轢があるにしろ、親や「斜めの関係」の伯母などが、結局は一緒に育ててくれ、賄ってくれていた。だから、父親は「働いてくれればよい」、今まではそれでよかった。が、夫婦しかいない、夫婦だけになってしまうと、仕事も、子育ても、家事も「一緒に」ということになってしまう。姑さんがやっていた家事を「手伝う」のではなくて、イーブンな立場でやる、状況がそうなってきた。

だから、「イクメンです。だから手伝おう」という発想ではない。委員がおっしゃるとおり。

- ・「多様性を認める社会」になってきたから、ある一方向の家庭教育を押し付けることは無理。だから、「沢山の家庭教育方法がある」と考えていって、だから男性も「今までのような生き方だと無理がある」。女性もそうである。前提が「多様性がある」というふうに変ってきている。だから家庭教育にも多様性を認める必要がある。その中で、子どもが一人前になるためにはどうしたらよいか、という方向に行く。そう考えた時に、昔のように「父親は稼いでくればよい」のでは無理、といってしまうおう、と。
- ・多様性を認める…といっておきながら、それぞれだと言っているところいう(野田市の)事件が起きてしまう。愛着障害も起こってしまっていると、多様性を認めながらも、お手本になるようなコアな部分が必要。
- ・「子どもがちゃんとした挨拶ができないと、ちゃんとした大人になれない」というのを提示したらどうか、教育では、よい手本は用意する。すると「こうするとよいのかな」と感じて身にも染みない。そうではなく悪い見本を見せて「それはなぜこうなったのか」という心理を考えることが必要なのでは。それを理解して、身にも染みないと、「自分もそういうことがあるかもしれない。でもやってはいけないことなのだ。」と実感しないと抑止できない。
例えば、あおり運転を繰り返す人がいるが、一旦反省してまたやってしまう。常習化している。そういう人はどういう教育を受けているのかな、と。そこを考えないと身にも染みない。
- ・健全な大人になるためには家庭教育が大切。

- ・養護施設などの入所者は、今は 90%以上がDV。だから戻れない。負の連鎖を断つことが必要。
- ・親の暴力は昔からあった。子どもは耐える以外に手段がなかった。なぜそうなるのか。親自身が虐待を受けると、子どもに連鎖する。周囲の力で連鎖を食い止めていたのかもしれないが、今は密室だから。
- ・女性の社会進出が進むと、親に子どもの教育ができるのか。2パターンある。共働きでないと生計が成り立たないケースと、妻の意識が高くて輝きたいケース。前者は厳しいものがある。世の中の要請も共働きになっている。
- ・「家庭を守る」という意識が、今の親にはないのでは。どちらも、ある意味がんばって、守っている。対等の立場で。対等にならないと女性は意見が言えないと思っている。「私も働いているのだから、あなたもこれをやってよ」と言いたい。言えないとやる気が無くなってしまう。一生懸命やっているのに。状況が変わってきていて、役割分担も変わってきている。
- ・「お母さんが家にいるから上手く回っているよ」という認識ではなくなった。家庭教育を考えると、夫婦関係も考えなければいけない。子どもの意識も、「お母さんが働いているから、僕は塾に行く」など、昔の子どもよりも自立している。
- ・結婚観そのものも変わってきている。初婚年齢が上がり、経済的なメリットも考慮され、社会も夫婦関係も変わってきて、少子化の連鎖に繋がっている。
- ・中学生くらいになると、親の離婚が増えてくる。離婚率も高くなっている。リタイア付近の離婚も増え、夫婦の生涯の関係性も変わってきた。これも家庭教育とともに考えなくてはならない。
- ・30代と50代の人にこの話をすると、30代はすぐに理解しているが、50代は頭を抱えている。でも、今から変わることは難しい。
- ・今は誰が食事の支度をしているのか。お互いに仕事をして帰って来たら。⇒昔は「当然奥さんが支度する」だったが、今は交代で、とか。対等なシフト関係など。
- ・昔は「女性は、お掃除とか家事が好きなものだ」という解釈をしていた。未だに、それが女性の特性だと思っている、生物学的にそうだと思っている男性がいる。そんなことはなく、同じ人間。好きでやっているわけではない。
- ・30代のお父さんは「朝御飯は僕が作ることにしている。」「洗濯物を干すのは自分の仕事」とか普通に言う。変わってきたことを感じる。一方、60歳を過ぎ定年を迎えると、そこでも変わるようだ。妻の方が若いので、まだ働いている。そうすると夫の定年が早い。すると「奥さんに働いてもらっているから、僕がやる。」とのこと。会社でも、定年前にそういう研修があるらしい。それを聞くから意識をするらしい。「働かないから意見を言えない」のか。
- ・いつからそうなったのか。中学校で家庭科を男性が受けているかで変わってきているのかもしれない。昔は中学校で分かれていたが。今は分かれなくて、「全般的に

こうやって生活をする」というのを皆で家庭科として学ぶ。

- ・「赤ちゃんふれあいタイム」で、中学校で男女の生徒が赤ちゃんを抱っこする。それがものすごくよい。
- ・しまだガンバの女子の参加率は、男女ほぼ同じ。女子の方が活発だったりする。
- ・「ほめる」「しかる」ルールが必要。親が子どもをしかれなくなっている。そのため、子どもがルールを守れなくなっているのではないか。
- ・子ども見守りの人たちと話す機会があった。親は子どもを叱れない、だから夫婦を守れないし、人に迷惑をかけない、などが話題になった。親は子どもと仲良くしたいが、しかる勇気がない。本当なのかどうかはわからないが。
- ・しつけのテクニックとアンガー・マネジメントが必要。
- ・最近、子連れが入れないレストランが増えている。子どもを親が叱らないから、親子を締め出そうという流れになっているようだ。
- ・よその子を叱ろうとすると、親が「うちの子に何をするのか」と言われたことがある。
- ・親がしつけをする力をつけることが必要。アンバサダー等が必要なのか。
- ・「ペップ・トーク（前向きな言葉をかける）」が大事。プレッシャーをかけるとマイナスに作用し、プレッシャーに弱い子どもを育てる。

5 その他

(1) 島田市社会教育委員 改選について

- ・教育委員と社会教育委員の任期について、教育委員会の方針として最長4期。ベテランの方が一度に代わるのは厳しいが、御理解いただきたい。
- ・教育委員も、最近8年に達した方が交代した。
- ・まだ8年にならない方は、是非継続をお願いし、この議論を続けて生きたい。また、個別に意向をお伺いする。出席の時間帯については沢山の方が出ることができるよう最大配慮したい。

(感想)

- ・残った人は活発な意見交換を。年6回しかない会議であり、せっかく選ばれたので出席を。欠席はしないようにしていただきたい。
- ・社会教育主事の資格を持っていたが、その時の知識を生かすことができた。
- ・いろいろな経験をし、勉強させていただいた。
- ・教育というよりは学習という時代。社会教育よりは学習支援に。
- ・選ばれている人達の会議で、進め方も意見を言いやすかった。

6 閉会 (20時46分)